

武蔵野教育學論集第13号： 目次,執筆要項,編集後記,奥付

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1905

武蔵野 教育学論集

第 13 号

目 次

跳び箱運動における残像動画アプリ使用の有効性に関する研究	安 達 光 樹	1
小・中・高接続における小学校英語授業からの示唆 -3つの評価観点と4技能育成の視点から-	江 原 美 明	9
小学校理科の天文学習におけるプラネタリウム活用法の再考 ~6m簡易プラネタリウムドームの設計と投影~	高 橋 典 嗣・下 村 知 愛	21
授業における教師のICT 活用と学校の情報化との関連	中 村 駿・浅 田 匡	37
実践研究：未来塾 ~学生が学び合う教員採用試験対策講座を創る~	野 中 繁	49
理科教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」	長 田 和 義	57
中華人民共和国の中等地理教育における自然災害に関する学習内容の分析（1） -義務教育中学「地理」課程標準及び準拠版教科書（第7学年）を事例として-	王 禹 軻・佐 藤 克 士	65
環境とゴミ問題の取り組みに関する日中比較	鄭 雨 薇・高 橋 典 嗣	79
ノルウェーの幼児教育における保育者の養成および キャリアアップ制度についての一考察	松 田 こ ず え	95
日本詩文書作家協会展の歩みと私の出品作	廣 瀬 裕 之（舟雲）	107

THE BULLETIN OF MUSASHINO UNIVERSITY

Faculty of Education

No. 13

CONTENTS

A Study on the Effectiveness of Using Afterimage Video Application in Vaulting Box Exercises	ADACHI Mitsugi 1
Insights from Elementary School English Classes in Coordinating Elementary, Junior High, and Senior High School English Education - Focusing on Three Assessment Criteria and Four Skills Development -	EHARA Yoshiaki 9
Reconsideration of Utilizing a Planetarium to Teach Astronomy in Elementary School Science ~Design of a 6-meter Simple Planetarium Dome and Projection Techniques~	TAKAHASHI Noritsugu / SHIMOMURA Chie 21
Relationship between Using ICT for Teaching and the Level of School Innovation through ICT	NAKAMURA Shun / ASADA Tadashi 37
Practical Research: Mirai Juku ~Creating a Student-Led Lecture Series for the Teacher Employment Examination~	NONAKA Shigeru 49
"Optimal Individual Learning" and "Collaborative Learning" in Science Education	OSADA Kazuyoshi 57
An Analysis of Learning Content on Natural Disasters in Secondary Geography Education in China I: A Case Study of Compulsory Secondary Education Course Standards in Geography Using a 7th Grade Textbook	WANG Yuke / SATO Katsushi 65
A Comparison of Japan and China on Environmental and Garbage Problems	ZHENG Yuwei / TAKAHASHI Noritsugu 79
A Study of Training and Career Advancement Systems for Childcare workers in Norwegian Early Childhood Education	MATSUDA Kozue 95
A History of the Japan Poetry Calligraphers Association Exhibitions and My Exhibited Works	HIROSE Hiroyuki (Shuun) 107

武蔵野教育學論集執筆要項

2013年10月10日制定
2016年7月14日改正
2019年7月11日改正
2021年9月1日改正

1 内容

- (1) 教育及び教職研究に関する学術論文
- (2) 教育学部所属教員の専門に関する学術論文
- (3) その他、編集委員会が認めたもの

2 投稿資格

学術論文または制作ノートに投稿できる者は、以下の者とする。

- (1) 教育学研究所研究員及び客員研究員
- (2) 教育学部専任教員
- (3) 共同研究の場合は、(1) または、(2) を筆頭者とし、他所属の研究員の執筆も可
- (4) 教育学研究所から依頼した者
- (5) 大学院生
- (6) その他、編集委員会が認めた者

3 倫理規定

執筆に際しては他人の著作権の侵害、名誉毀損、データの捏造、人権の侵害等の問題を生じないように十分に配慮しなければならない。倫理的な配慮が必要とされる学術論文等については、投稿者が所属する機関等の「倫理審査委員会」で承認を得たものに限り、学術論文等において、その旨を明記しなければならない。なお、万一掲載された執筆内容が他者の著作権を侵害したと認められた場合、投稿者がその一切の責任を負うものとする。

4 公開

印刷冊子、および、武蔵野大学のホームページ上等で電子データとして公開する。

5 投稿方法

- (1) 投稿を希望する者は、指定された期日までに所定の「武蔵野教育學論集投稿申込書」を提出しなければならない。
- (2) 原稿は、指定された期日までに所定の書式で作成した完成原稿（紙面に打ち出したもの）とそのデータを提出しなければならない。
- (3) 写真や図表は鮮明なものを使用し、完成原稿中にその位置を明示すること。

6 投稿規定

A 学術論文

- (1) 原稿は未発表のものに限る。
- (2) 原稿は1人1編に限る。但し、共同研究に関しては、編集委員会で審議する。
- (3) 原稿は、横書き及び縦書き両方可とし、題目に英訳を併記すること。
- (4) 同号の制作ノートを投稿した者は、原則として、学術論文を投稿することはできない。

(5) 字数等

①頁数・字数

10 ページ程度（注、図表、写真、その他、を含む）を原則とする。

*横書きの書式は、1 ページ 43 字 × 38 行とする。

*縦書きの書式は、1 ページ 30 字 × 25 行の 2 段組とする。

*図表、写真は適宜文字数に換算する。

*図表、写真などが多いため他の原稿と比べて著しく費用がかかる場合、編集委員会は執筆者に負担を求めることが出来る。

②用語及び文体等

現代仮名遣いを原則とする。外国語を仮名書きにする場合は、カタカナとする。

③書式

別表の書式例参照のこと。

(6) 校正

原稿は完成原稿を提出するものとし、校正段階では最小限の字句の訂正にとどめるものとする。校正は原則として執筆者が行い、校正済みの原稿は、編集委員会が指定した期日までに必ず返却しなければならない。

B 制作ノート

(1) 研究作品写真を用いた制作ノートを投稿することができる。

(2) 研究作品は、原則として、その年度内に制作（展覧会等での発表を含む）したものとする。

(3) 同号の学術論文を投稿した者は、原則として、制作ノートを投稿することはできない。

(4) 研究作品の題名・制作年などを記し、鮮明な画像（写真又はデータ）を提出するものとする。

(5) 頁数等

①頁数

4 頁以内【研究作品掲載（カラー）1 頁、及びその解説等 3 頁以内（白黒）】とする。

②その他

* 学術論文に準ずる。

(6) 校正

* 学術論文 (6) に準ずる。

7 掲載の採否・順序等

(1) 掲載の採否は、査読を経て、編集委員会が決定する。

(2) 編集委員会は、原稿の書き直しを求めることが出来る。

(3) 掲載順序などの編集は編集委員会が行う。

(4) 執筆者には、紀要 5 部、別刷 20 部を無償で配布する。共同研究の場合も各執筆者に別刷 20 部ずつを無償で配布することを原則とする。それ以上の部数を希望する場合は、必要部数をあらかじめ編集委員会に申し込まなければならない。その場合、超過部数に関わる費用は執筆者の負担とする。

8 その他

その他の事項については、編集委員会で決定する。

本要項は、「武蔵野教育学論集」第 12 号の執筆・編集から施行する。

***編集後記**

新型コロナウイルスの流行も3年目を迎え、第6次感染で終わりかと思っていたら、その変異株の新しいオミクロン株が発生。7月から第7次が始まり、8月初旬には、東京だけでも感染者が連日3万人を超える日が続いていた。コロナワクチン接種の効果に期待したが、3回目を打っていても罹患する人が続出。重症化を防ぐとはいわれているが、何ともいえない気持ちである。4月、教育学部棟である4号館に念願のエレベーターが設置されたこと。同館2階の学習スペースの充実、同館入口の parasol 設置が特筆できる。また、6・8月のオープンキャンパスに向けて、両学科とも学科紹介の新しいパンフレットを制作。学生の満足度の高い教育学部をずっと維持していきたいと考える。

ここに第13号が完成しました。ご執筆いただいた教員・大学院生の方々に深く感謝申し上げます。

(紀要編集委員 廣瀬・高牧)

武蔵野教育学論集 第13号

2022年10月10日発行

編 集 武蔵野教育学論集編集委員会

発 行 武蔵野大学教育学研究所

〒202-8585 東京都西東京市新町1-1-20

電話 042-468-3290

印 刷 株式会社 創文

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町13-1

電話 03-5643-3320

【武蔵野大学教育学部における紀要発行の歴史】

通号	名 称	発行年月日	発 行
1	教育研究所紀要 第1巻第1号	2012・3・1	教育研究所
2	教職研究センター紀要 第1巻第1号	2013・3・1	教職研究センター
3	第2号	2014・3・1	教職研究センター
4	第3号	2015・3・1	教職研究センター
5	第4号	2016・3・1	教職研究センター
6	武蔵野教育学論集 創刊号	2017・3・1	* 教職研究センター
7	第2号	2017・8・15	教育学研究所
8	第3号	2017・9・1	教育学研究所
9	第4号	2018・3・1	教育学研究所
10	第5号	2018・9・30	教育学研究所
11	第6号	2019・3・1	教育学研究所
12	第7号	2019・10・1	教育学研究所
13	第8号	2020・3・1	教育学研究所
14	第9号	2020・10・10	教育学研究所
15	第10号	2021・3・10	教育学研究所
16	第11号	2021・10・10	教育学研究所
17	第12号	2022・3・10	教育学研究所
18	第13号	2022・10・10	教育学研究所

*2017・4・1より教育学研究所設立により紀要名を先行して改称